

之を許したとあるが、こゝに辨慶といふは三右衛門のことで、臂力あるを以てしか稱せられたのである。天正十年前田利家の石動山を攻撃した時、三右衛門爲に馳走し、十月中井北方之内貳拾俵を給せられたが、元和二年二代三右衛門の時、同村南方重右衛門の扶持が十五俵なるを以て、之と同列として五俵を減ぜられた。初代三右衛門以後常に十村の職に居り、その名と共に扶持を傳へた。

ナカキノナウラナイリ 中居の七浦七入 鳳至郡中居六所明神記にその地の景勝を記して七浦七入とする。七浦は宮浦・布敷浦・猿津浦・於賀津浦・和田の浦・島の浦・眞保浦、七入は沖の入・崎の入・中入・麥の入・内入・奥の入・沙干の入である。

ナカキハツケイ 中居八景 鳳至郡中居附近の景勝、橋樑夕景・大浦晚鐘・北村晴嵐・南村歸帆・比良落雁・瑞鳳秋月・川尻夜雨・奥津暮雪をいふ。

ナガキヒヨウエモン 永井兵右衛門 前田利家に仕へて藤千石を受け、後慶長五年八月利長の大聖寺攻城に従ひ、奮戦して歿した。子孫藩に世襲する。

ナカキヒヨシヤ 中居日吉社 鳳至郡中居南の産土神である。能登誌に『中居南村の氏神は山王權現にて、神主四柳氏。別當は醫王院・觀音院・蓮臺院・月光院四ヶ寺年替り也。』とも見え、これら社僧の惣名は日吉山安養寺であつた。明治四十年十一月同部落なる奥津比咩神社を併合した。その奥津比咩神社は嘗て延喜式神名帳所載のそれであることを主張したものであるが、固より何の典拠があつたわけではない。能登名跡志に、『南(中居南)の

出崎風景の地に、奥津姫大明神の大神あり。祭禮毎年三月十五日・十六日也。此の社は元は隣村の麥の浦境に宮の入とて深き入江あり。此所にありしを移し奉りし也。』とある。

ナガキマサヨシ 永井正良 通稱傳七郎・織部。父は京極刑部の家臣。萬治二年前田綱紀に召出され、延寶三年御歩頭兼御中小將番頭に任じ、馬廻頭の時元祿五年飛騨高山に成し、尋いで定番頭を経て、寶永六年祿二千五百石人持組に進み、世嗣吉徳附となり、享保五年十月廿八日七十八歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ナカキミナミ 中居南 鳳至郡南北郷に屬する部落。天文元年七月の諸橋六郷南北棟敷註文には中井南の文字を用ひてゐる。↓ナカキ 中居。

ナカキロクシヨミヨウジン 中居六所明神 鳳至郡中居(中居北)の産土神である。能登誌に『中居北村の氏神は六所大明神とて、神主神杉氏、別當は地蔵寺とて眞言宗也。』とあり、神主の苗字が示す如く、式内神杉伊豆牟比咩神社たることを主張したものゝ一つで、今は社號を神杉伊豆牟比咩神社と稱してゐる。

ナカキロクシヨミヨウジンヤキ 中居六所明神社記 一冊。鳳至郡中居村の産土神六所明神の縁起であるが、附會の説が多く書かれてゐる。

ナカヲ 中尾 河北郡五ヶ庄に屬する部落。
ナカヲ 中尾 鳳至郡比咩庄に屬する部落。明治中に至り西中尾と改稱した。

ナカヲ 中尾 鳳至郡川原田郷に屬する部落。明治中に至り、東中尾と改めた。

ナカヲ 中尾 珠洲郡大谷の内の小字。
ナガヲ 長尾 鳳至郡中野郷に屬する部落。能登名跡志に、『長尾村に昔弘法大師興へ給ふたばこの種とて、煙草の名物あり。』とある。

ナガヲ 長尾 珠洲郡木郎郷に屬する部落。
ナガヲガソウ 長尾巖窓 鳳至郡南時國の人である。幼名幸次郎、後九萬藏・三郎平と稱した。夙に藻寄玄岳に従うて儒醫を學び、遂に笈を大坂に負うて醫を習ひ、又京都に行きて劉石秋に學を修め、後歸郷して刀圭を業とし、傍ら公職に勤め、明治二十三年二月五十二歳で歿。

ナガヲチケイ 長尾智啓 珠洲郡引砂眞宗東派淨福寺十一代泰嚴の弟。一界舎と號した。文政六年開僧院嚴職講師の門に入り、寮司に進み、明治八年十月十一日六十九歳を以て歿。法名釋良慶。

ナガヲヤマ 長尾山 鳳至郡山上部落から東方に在る山。高さ圖上測定三四〇米。地質輝石安山岩。
ナギナタザカ 長刀坂 鳳至郡稻舟に在る。能登誌に、『利家公當國御發向の時、鷲嶽八幡社僧の内、石動山に興力せしものあり。長刀にて御成敗ありしとぞ。』と記する。

ナキネンブツ 泣念佛 眞宗東派に起つた泣念佛といふのは、どうした事か明らかに知り難いが、歡喜感謝の極泣涕する如き節調で念佛を唱へたことかと思はれる。これは法令の禁する所でないが、常軌を逸するともいはれるから、寛文・延寶の頃に一たび停止したのであるが、尙終熄しなかつたから、元祿五年更に能登一圓に對して嚴に禁令を發したこ

とが見える。
ナギハタ 薙畑 白山山地の出作地帯では、薙畑の耕作が行はれる。その方法は、ムッシ即ち一旦薙畑に供せられた後多年放棄せられた土地、又は山林の雜木を秋の頃伐倒し、長さ一米許にして枯らしたのを地上に並べ、翌年五月末から六月初の快晴に火をかける。若し茅原ならば一週間許り前に蒔つて焚くのである。その灰の残された所へ直に種子を蒔き、地味の良好な所では蕎麥・稗・粟・大豆・小豆等を輪作して五六年間繼續するが、劣悪な土地では一年限りで止める。その後又十年乃至四十年放棄して次のムッシとなるを待つ。

一ヶ年一戸の薙畑は五アールから一五アールである。
ナゴシイチ 名越思一 金澤の俳人。柳陰軒二代を襲ぎ、後改めて柳陰舎と稱したが、その詳傳を得ぬ。

ナゴシヤ 奈古司社 鳳至郡岩車に在る神社。もとは南北司宮と書いてナゴシと訓んで居たといふが、その理由は判らぬ。岩車が天文の頃は南北郷であつたから、この字を用ひたのであらうとする説もある。岩車にはこの外山王・住吉・少彦三社があつたが、前の二社は明治中奈古司社に併合せられた。少彦社はそれより前に廢滅したのであらう。

ナゴシトキカネ 名越時兼 建武二年北條高時の弟時興、西園寺大納言公宗に勸めて、前代の勢力回復を謀ることを策したが、公宗は之に賛し、時興を京師の將として畿内の兵を催促し、その甥時行を關東の將として甲信武相の勢を率ゐ、又名越太郎時兼を北國の將として越中・能登・加賀の軍を嘯集せしめんと